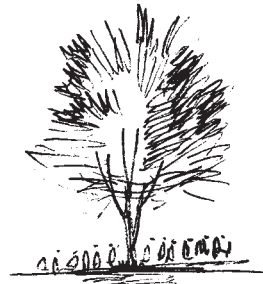


# 光の子



No.197 2020.9.20

●年間聖句 信じます。信仰のないわたしをお助け下さい。

(マルコによる福音書9章24節より)



「夏の果て」

表紙絵・中島由起子

「天辺に」

母の日のいちにち雨の音の中

裏返る波の白さよ夏はじめ

涼しくて赤子の眼よく動く

もてなしは山の水てふ夏館

だんだんと道細くなる閑古鳥

水打つてしばらく風の祇園かな

「父卒寿」

天辺にひらきて朴のまぎれなし

黛まどか

## 四十路論

副施設長 小西 剛史

『人のためになる仕事をしたい。』そんな聞こえの良いキャッチコピーを掲げて、光の子どもの家にやってきた二十代半ば。当時はそんな上辺だけの言葉に乘っかり、深く考えないまま日々を過ごしていた。時が過ぎ、少しずつではあるが客観的に自らを見つめることができるようになった頃『結局は人のためではなく自分のため？人のためになつていてと思ひ込んで自分に酔っているだけでは？』という疑念が脳裏をよぎるようになり、自己嫌悪に陥った。そんな心のわだかまりを拭い去るために、休みの日になると本屋や図書館へ出向き様々な本を斜め読みしては何が正しいことなのかを探し求めるようになっていった。

そしてある時、正しいことは一つとは限らないという事に気づき『自分のため、も大切なこと』『人のため、は必ずしも自分を犠牲にすることとイコールではない』という考え方に至った。同時に、光の子どもの家に来てから毎日目にする事になった『聖書』の言う『友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない』という教えには遠く及ばない自らの結論に若干の後ろめたさも感じていた。ただその頃から、子どもたちと過ごす時間を、できるだけ楽しいものにしようと、素直にそして純粹に思えるようになっていった。

そして十数年が過ぎ、四十歳を迎えた。かつて『子どもたちの人生を真っ当な方向に導くぞ！』などと肩肘張って意気込んでいた自分は『人の人生を導こう（導ける）などと考えてること自体おこがましいことだ』と謙虚に育つていった。

四十を過ぎると『人生の終焉に向けて』みたいなことを時折考えるようになる。年齢的にちょうど折り返し地点のような時期だからなのだろう。先のことを何も考えずに生きてきたこれまでと、この先どう人生を締めくくろうかというこれから、との節目である。

『人生』という表現を使うと、若い頃とはまた違う形で自分中心の考え方に偏る気がする。他人事だと思っていた親の高齢化はもう現実であり、自身の働きがどこまで続けられるだろうか、老後はどう生きていこうか……、などなど自分のことを顧みざるをえなくなる。

でもわたしの人生は既に自分だけの物ではない。ありがたいことに、こんな自分を必要としてくれてる子どもたちや卒園生たちがたくさん存在している。そして必要とされることで存在意義を見出し自分が生かされているという事を最近特に実感する。子どもの成長のため、子どもの幸せのためと歩んで来たはずが逆に周りから生かされているのである。だとしたら生かしてもらった分は恩返しをしな

ければならない。そしてこれからは誰かを必要として報いを受けた時のみならず、誰かに必要とされたときにこそ感謝をしよう！

光の子どもの家に来る前『人は何のために生きているのだろうか』と、生きている価値を見いだせずに悩んだ二十代前半があった。そして導き出した答えが『人のため』であった。それが直接的であろうと間接的であろうと世の中の仕事として成立している事は全て『人のため』になっている、という小学生でも分かりそうなことに二十歳を過ぎてようやく気づいた。ただその時は一方向でしかそれを捉えていなかった。

そして今、人は生かし生かされ共生していくものなのだという事に気づいた。こんな気づきもまた五十代、六十代を迎えた未来の自分に『青い！』などと訂正されるのかもしれないが……。

子どもたちの人生に深く関わるこの仕事において、今後もし決して思い上がる事のないよう戒めとしてここに公言させていただきます。

## プリズム

保育士 峯崎 舞

七月三十日のこと。

幼稚園が夏休みになり、職員達の打ち合わせが終わるまでは、原田家で担当とお留守番をして遊ぶ、英樹と吉尚。

英樹は大好きな車のおもちゃ箱を両手に提げてダイニングへ。吉尚は英樹が車をテーブルに広げて遊ぶ姿を見たり、一人で「へんしん!!」などと仮面ライダーになりきったりして、遊んでいた。

すると突然、地震のアラームが鳴りだした。急いで二人に呼びかけ、三人でテーブルの下へ。「大きい音、びつくりしたね。」「地震が来るぞ!」ってアラームが鳴った時は、テーブルの下に行くんだよ。」と話す。英樹、吉尚共にびつくりした表情で「うん、うん。」と頷いた。

少しおいて、英樹は「英樹、大きくなったら〜、キラメイブルーになる!!」「まいさんになる!!」と、話し始めた。最近英樹の中では「大きくなったら〇〇になる!」言うのがブームのようだ。

吉尚は、担当がテレビをつけて地震の状況を確認しているのを見たからか、突然、「英樹!! 静かにして!! 地震の時はしゃべらないんだよ。テレビも聞こえないでしょ!!」と真剣な表情で注意をする。誰よりも真剣な顔で、

でも少し怖がっているようにも見えた吉尚。「そうだね、吉尚は地震の時どうしたら良いか分かるんだね。」と頭をなでて、「大丈夫だよ」と二人に声をかけた。

実は一番緊張していて不安だったのは私だった。原田家にいる大人は私だけ、もし大きな地震が来たらどうしよう、地震の時は窓をあけておくんだっけ……。などと頭の中は守るためにどうしたら良いかの考えばかり。

テレビでは気象庁が、先ほどの緊急地震速報は誤報だったと発表していた。何も起きなくて良かったと安心したと共に、緊張をほぐす為に英樹はふざけたのかな? (きつと違う) と思いつつ、吉尚の成長ぶりを感した。

## プリズム

保育士 遠藤 恵里香

新型コロナウイルスの影響で学校は数ヶ月の休校を余儀なくされ、今年の子どもたちの夏休みは、二週間ほどの短いものとなりました。

例年、夏休みには県外の海や山へ出向き、自然と触れ合う宿泊行事がありました。今年も計画こそしましたが、依然猛威を振るう新型コロナウイルスの情勢を踏まえ、実現することはありませんでした。

それでも、子どもたちはこの実質ステイホーム延長下に置かれても、楽しみを見出し、思わぬ成長を見せてくれました。

小学一年生の菜々は、夏休み開始と同時に敷地内に設置されたプールに大喜びで、毎日のようにプールで遊んでいました。プールに入った当初は、浮き輪とゴーグルを装着し、みんなと水鉄砲や流れるプールづくりなどして遊んでいました。しかし、夏休みも中盤に差し掛かると、水に顔を付ける練習や、バタ足の練習を繰り返すようになってい

ました。

ある日、菜々は、

「えんどうちゃん! 菜々泳げるようになったよ! 見に来て!」

と、満面の笑みで話しました。見に行くと、きれいな蹴伸びからのバタ足を披露してくれました。

実は、水が顔につくのが嫌で、泳げなかった菜々が、この短期間で泳げるようになったことは驚きでした。

菜々の自信に満ち溢れた笑顔は、きっと今後も忘れられないものになると思います。



園庭プール

## 鬱・鬱うつ

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

鬱・鬱としている。

東京都の新型コロナウイルス感染者数の発表に一喜一憂している自分を見て、「そんなに気にしてもどうしようもないのに」とつぶやきながら毎日を過ごしていることにも呆れかえってはいるが、それだけではない。

さる農村の一家のことである。息子が東京から一時帰宅し、コロナウイルスを持ち込んだらしい。年老いた父親が感染し、重症化して入院した。ここまではよく聞く話である。ところが、「なんと」ということをしてくれたのだ」と、周囲の人たちは、その家に石を投げつけることまでしたという。まさかと思いはしたが、事実のようだ。一家はまさに石持て追われる如くに、その土地を離れていった。

ここで話は終わっていない。移り住んだ先で、入院し

た方の奥さんは自殺してしまつた。ややあつて入院した方はコロナで亡くなつた。

私は、「光の子」の前号、前前号で、コロナに対する我が国の人たちの行動を褒めた。しかし、事の実態はこのような事件までおこしていたことを知って、自分の至らなさを悔いている。今話した例は特殊なものではないと気付きました。

前にも「光の子」に書いたような記憶がうつつすらと残っているのだが、あえてここで言う。「ゆい(結)」という言葉があり、「農村社会の古くからある慣行で、田植えなどを協同行う組織で、人の結びつきの強さの上に成り立っている」とされている。東日本大震災のボランティア組織などで、目指すべき目標として「ゆい」という言葉を使っていた人を見たことがある。しかし、その「ゆい」のとら

え方は、「ゆい」の一面性しか見えないように思う。その裏には水利権などを基礎にした、強固な縛りがあり、それを守らない家は村八分にされて追い出されたのである。

前述の事件はそれを地で行つたと見ることも出来よう。そんな田舎のこと知るか都会に住む人は思うかもしれないが、そうではないと思う。「同調圧力」に対する反応が、今回のコロナ騒ぎにおける我が国の人たちの行動の基本になつていてと考えられ、それは遠く「ゆい」の心に求められるような気がしてならないのである。

我が国の色々な組織のコロナに対する基本対応原理を見ていると、「一番にはなりたくない」という心が透けて見える。大学がウェブ講義ばかりしているのが、文部大臣が苦言を呈していたが、要は、大学構内で最初のコロナ感染者を出したくはないということではないのか。

テレビ番組で、さる有名な元世界チャンピオンのボクサーが言っていた言葉が耳に残っている。「自分が、コロナ

などに罹ったら、何と言われるか」。自分の体が愛おしいからでもない、他人にうつしたら悪いからでもない。要するに世間に指さされて、芸能界から追い出されるのが恐ろしいのである。このボクサーのことを侮ることなど誰にもできないのではないか。

コロナに対するマスク着用の効果が世界的に認められるようになり、WHOなどもそれを推奨するようになった。学術雑誌でもマスク着用のコロナウイルス感染予防効果が実証されるようになった。日本人のマスク着用の奇妙さ(?!?)をあざ笑っていた欧米人もマスクを着用し始めた。これはこれで素晴らしい事である。しかし、自分のことを振り返ってみると、「他人にコロナをうつす」のが怖いからマスクをするという心理よりも、「アツ、あの人マスクしてない」と指さされることが怖いのである。事実、コロナが最近ほとんど発生していない山形で、外出するときにはマスクをして歩かなければならない理由はあまり見当たらない(もつとも、私の勤め



担当の誕生会にマシュマロ  
パンダを作った (牧野家)

ている免疫力の弱った老人介護施設の中では、万が一にも感染が起こってはならないので、施設内のマスク着用は必須ではあるが。(この辺の記述は誤解を生みそうであるが、そのままにしておこう。) いずれにしても、我が国の人々のコロナ対応は、コロナを広げないことは世界の人々の幸せのために大切なことであるという「公共性」から生み出されたというよりは、世間の非難から身を守るという自分を利する心が強いのではないか、と言ったら言い過ぎだろうか。私の心はやはり晴れないのである。

## 赤い花

彫刻家 中島 睦雄

以前、脊髄を痛めて、しばらく寝たきりの日々が続いていた。

日常の生活を自分で行動することができないのであった。

しばらくして、介護関係の様々なサービスが行われていることを知り、息子がそれらのサービスを受けられるよう手続きをしてくれた。

食事Ⅱ月曜、水曜、金曜のそれぞれ昼頃に一食分を届けてもらえるのである。

入浴介護Ⅱ毎週金曜日の十時頃、自宅まで来て下さって、風呂に入れてもらえるのである。

このようなサービスがあるとは思ってもみなかった。

二メートルくらいあるボートのような浴槽を運び込み、それにお湯を入れてマスクをつけた三人の女性の方がその風呂に入れてくれるのである。

衣類まで脱がしてくれ、私は何もせずただ横になっただけでいいのである。

「これじゃあ、まるで殿様ですね。三人の美女に付き添われて」と言う。「私たちは決して美女ではありませんよ」と、マスク越しに冗談めいた言葉が返ってくる。

しかし、やはり殿様みたいだ……。

入浴の前には体温、血圧、血中の酸素の量も測ってくれ、湯船で温まってから、全身を洗い流してくれ、タオルで全身を拭いてくださり、入浴後も体温、血圧、血中の酸素を測定して下さる。介護の方々も実に優しく、親切である。

或る時、このような流れの中で、介護の女性の一人が枝付きの一本の花を持ってきて下さった。赤い花であった。

桜でも梅でも桃の花でもない。わからないが実に綺麗な

花である。それを大きめなコップに綺麗にまっすぐに射すように工夫までして下さった。そのまっすぐに立っている姿がまた実に凛々しく美しいのである。

寝たきりの状態の中でこんな美しい生き生きと咲く花を見ることができるなんて、実に幸せを感じた。

それを持ってきてくださった女性の名前もわからない。それに、介護に来て下さるメンバーも代わるので、どの方もわからない。

いずれにしても、介護の女性の方々の親切心が、あの赤い花に込められているのであると感じた。

私は、息子に頼んで赤い花を写真に撮っておいてもらった。

あれから月日が経ち、赤い花は枝こそまっすぐに立っているが、花びらはしおれてしまっている。

しかし、私の心の中には、あの赤い花が決して色褪せることなく、生き生きと咲き続けているのである。

# 共育ちカンガルー日記 (56)

## 百日紅の記憶

近藤 みちる

夏が来ると街路樹や公園の片隅で、猛暑の中ひと際色鮮やかに花をつける百日紅。私は昔からこの花が大好きだった。「百日咲く」というその名の由来そのままに、日に褪せることも嵐に散ることもなく、ひと夏を凜として咲き通す、強くも美しい花木である。

この百日紅の花を目にするたび、ふつと蘇る記憶が私にはある。むつと息がつまるほどの蒸し暑い空気と蝉しぐれ、眩暈を覚えるほどのざらざらとした真夏の太陽。記憶はいつもその情景から始まる。

それはちょうど十年前の夏のことで、私とパパは当時二歳だった優希を連れて、発達障害者支援センターの医師のもとを訪れていた。八月のとても暑い日の午後だった。センターは町場から離れた静か

な森の中にあり、小さな診察室には大きな窓があつて、外には百日紅が真っ赤な花を枝いっぱい咲かせているのが見えた。

優希が床に座り込んで積み木を積んでいた。その傍らで、私達は医師からの言葉に静かに耳を傾けていた。

「娘さんは、自閉症です」。夢ともうつつともつかない、そんな実感のない空間と時間の中で、なぜか百日紅の花の色だけが、やけに鮮やかに輝いていた。

(こんな時でも百日紅はあんなに真っ赤に咲いているんだな)

娘の障害告知という深刻な場面を私はどこか他人事のような心地で、窓の外の百日紅の残酷なまでの美しきに見とれていたのである。そしてその記憶はいつもここで終わる。

記憶の中の自分は、不思議なくらいに感情というものを持たない一方、その記憶を思い起こしている自分の心の奥底には、いつもほのとした疼きのような感覚が湧き起る。きつとあの時、私は深く傷ついていたのかもしれない。娘の障害を告げる医師からの言葉に、そして百日紅の見事なまでの美しさに。

今では優希も大きくなり、あのセンターに足を運ぶことも無くなったが、百日紅の記憶だけは今も鮮明に残ったままである。その花を目にするたび、まるでビデオのスイッチを入れたかのように、あの日の情景が心のスクリーンに映し出される。つい見とれてしまう大好きな花なのに、胸の奥が痛む、私にとって百日紅はいつしかそういう花になつていった。

だが私の目に、今年の百日紅は少し違つて映るようになった。

コロナ禍に世界が揺れ、社会が混迷を極める中、私達の日常も大きく様変わりした。子供たちは長い間学校にも通えず家に閉じ込められ、親た

ちは子育てと仕事のやりくりに奔走した。多くの尊い命が失われ、医療はひつ迫し、経済も低迷。先の見えない不安に誰もが苛まれている。

そんな中、百日紅は今年もいつも通りに真っ赤な花を咲かせた。炎天下をふてぶてしく、堂々と咲き通す百日紅。まるでコロナ禍なんて私には関係ない、私は私の営みを全うするのみ、とでも言わんばかりである。

思えば、あの日診察室の窓から見た百日紅も、ちょうどこんなふうになつて輝いてたっけ。我が家に起こつている出来事などまるで構いなしに、真っ赤な美しい花を風に揺らしていた。きつと、ただただその日その日を、命いっぱい咲き続けていたのだろう。

またいつか、あのセンターに百日紅を見に行つてみようと思う。きつとこの十年で幹は太り、背丈も随分と伸びたことだろう。

季節は肅々と巡り、命あるものはその営みを精一杯に全うする。どんな時にも花木は

毎年同じ場所で同じ花を咲かせる。そんな当たり前が今の私にはこの上なく安心で、幸せなことだと思えるのである。

ウィズ・コロナの時代と言っても、地球はこれまでと何も変わらずに回り続けている。なんだか大げさに聞こえるかもしれないが、私は私の営みを誠実に懸命に全うしていこう、そんな思いを新たにしました今年の夏である。

始まりはあの日あの丘百日紅  
みちる

## プリズム

厨房職員 梅田 由珠子

暑い日が続き、夜もぐっすり寝られない毎日ですね。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

コロナウイルスが騒がれ出した当初、子どもたちがマスクをして遊んでいる姿には、心が痛みましたが、今も感染が拡大していて気が抜けません。

今年の夏休みは、外出もままならないですけど、子ども

たちもしかたないと思ってるのか、「お出かけしたい」としつつこくわがままを言うこともなく、元気に過ごしております。

幼児や小学生は光の子どもたちの家のプールで楽しそうに遊んでいます。プールの中で子どもが密集するのもどうだろうか？という話し合いもありましたが、やはり作ろうということになりました。子どもたちの笑顔を見ると、作ってよかったです。

職員は、毎年のことですが、怪我などが起こらないようにと暑い中、交替で外に出て子どもたちを見守っています。職員の熱中症も心配です。

小・中学生は、毎日宿題や自主学習を職員指導のもとがんばっています。特に中学3年生は、今、受験に向けてがんばっています。大変な年の受験なので、かわいそうだなと思います。でも条件は、みな同じなのでがんばるしかないと思っています。ガンバレ!!

年末に向けて、どうなるのだらうと思うと、自分自身の

ことも含めて心配でしかたありません。冬にはインフルエンザもあり、ますます心配です。早くコロナが収束することを祈るばかりです。

私たち調理関係の職員は、食中毒対策にも気を配っております。食中毒は一年中起こりうるものですが、今この暑さの中、体力も弱っているかと思うので、食中毒を出さないよう、特に気を配っております。

でも、後ろ向きな気持ちにばかりならないで、体調管理に気をつけて、頑張る前向きに進んでいきたいと思っています。

## 訃報

柿沼正男氏（光の子どもの家後援会会長）が、8月4日に逝去されました。氏は、光の子どもの家と地域のかけ橋となってくれました。生前のご尽力に感謝し、安らかに眠られますようお祈りいたします。

## ～お知らせ～

日ごろお世話になっている皆様をお招きし、例年11月3日に開催している「感謝の集い」ですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止といたします。この紙面をもって皆様へ深く感謝をお伝えするとともに、来年こそは皆様をお招きできることをお祈りいたします。

社会福祉法人光の子どもの家 理事長 大高 晋一郎

## プリズム

心理士 積 みどり

いつもと同じように暑い夏がやってきましたが、今年はコロナウィルスの流行により、外出がほとんどない夏休みになりました。皆様はこのコロナ禍の中、どのような夏をお過ごしになられたでしょうか。

光の子どもの家では、旅行やイベントはないものの、中庭にはプールを設置して、子どもたちは毎日のように水遊びを楽しんで、元気に過ごすことができています。虫取りに励む子どもたちもいます。特にセミの抜け殻はどの子どもも安心して捕まえられます。園生の彬くん、長い虫取り網を持って高いところにある木の葉っぱについているセミの抜け殻を見つけては、虫取り網で器用に葉っぱをつついて抜け殻を落として集めています。その時、抜け殻が落ちたところに本物のセミがジリジリと羽音を鳴らして動いているのを見つけました。怖がるかと思いきや、掴んでよく

見て、「このセミ、羽がちぎれちゃってる」と言い、そばにいる私に「持っていてくれる？」と聞いてきました。私が「セミが暴れたら逃しちゃうかも……」と言うと、私に預けることは諦め、木の幹にそっとくっつけてあげました。そのセミは落ちることなく、力強く木を登っていき、やがては見えなくなりました。一緒に見えなくなるまで見送って、「良かったね」といった表情でニコニコと私と目を合わせる彬くんがいました。

普段はニコニコとして可愛らしい彬くんですが、自分の意思がとて強くて、意に沿わない時には頑固に主張し、時には暴力的な言動をしてみまうことも。関わる大人がてこずることも度々あるのですが、本当に動物に優しいのです（ある時はネコにお菓子を分けてあげていることもありました……）。どんなに大人を困らせてもいいから、弱いものに對する優しい心を持ち続けてね。と願った夏の一コマでした。

## プリズム

保育補助 奥寺 美鈴

残暑も厳しいこの頃ですが、仙道家の子どもたちは毎日元気過ぎる程元気に生活しています。

仙道家は男児だけ9人の男所帯。家の担当指導員、小西の周りにはいつもハムスターのように数人の子どもが寄り添っています。

この夏休みはコロナの影響もあり2週間程度と短く、県を跨ぐ移動を大勢でするべきではないとの判断から毎年恒例の家事事も中止となり、子ども達にとっては楽しみがなくなってしまうという異例の夏休みとなりました。

そのなかでも小学生は家のプール、中学生は部活動と子どもたちなりに夏休みを充実させようと頑張っていたと思います。仙道家の子どものなかでは5人がニンテンドースイッチを持っていて下は小2から上は高2までの子どもが一緒になつてゲームをやる事も多いです。スイッチを持っていない子

は中に入れず観ているだけではありませんがダイニングに集まって過ごす事の多い夏休みではありました。殆どいつも中心に小西がいて小学生から高校生までいろんな感情をぶつけています。小西が他の子を可愛がると嫉妬むき出しになつてしまう小5の礼は、たけし軍団（私が勝手にそう言っているだけです）に新しく一つ下の哲之が入った事によって多少荒れていました。それでも本人は「小西さんが哲之に優しくしていると嫉妬しちゃうんだ」等、素直に言ってくれたり、小西を怒らせてしまった時には「どうしたらいいかな」とオタオタしてみたり、私から見てもごく可愛らしい所を何度も見せてくれます。子どもがずっといる夏休み。毎年思う事ですが、始まる頃は「うわあ、夏休みがやってくる」と思いますが、今年の夏休みは終わってしまうと「やつと終わつた」と思うと同時に私自身、「子どもたちとどこかに行きたかったなあ……残念」と思う夏休みになりました。



日誌抄

2020年6月～8月

【在籍児童数(8月末現在)】

幼児 5名 小学生14名  
中学生9名 高校生7名  
計36名(一時保護を含む)

【6月】

8日 幼小中が通常登校に  
12日 職員礼拝 若月健悟牧師(守谷教会) ご奉仕  
13日 法人監事監査  
15日 聖徳大学2名実習開始  
22日 地域の方のご厚意で幼児が芋掘りに  
26日 夕礼拝 木田浩靖牧師(東埼玉バプテスタ教会) ご奉仕  
27日 評議員会 定款変更  
29日 本園を設計した増田氏

【7月】

7日 七夕 笹に短冊を飾る  
13日 原道小との連絡会  
17日 職員礼拝 若月牧師  
18日 前澤太郎氏(株式会社リピート)によるインターネット研修 子ども向けと職員向け それぞれに  
22日 小学生3名算数検定  
園庭で4～7月の誕生日会 食事と花火

【8月】

7日 小中学校終業式 園庭プール開始  
夏休み コロナ禍の短い夏休み 恒例の宿泊行事は中止し小規模な外出を 大谷資料館(採石場跡) ショッピング

と大型改修に向けた打合せ  
30日 第三者評価 31日まで

ングモール 外食 園庭でバーベキューなど  
20日 子どもの健康診断  
卒園生の墓参り 職員と卒園生数名で

21日 8月生まれの誕生会  
食事はせずお祝いのメッセージを送る

28日 夕礼拝 木田牧師

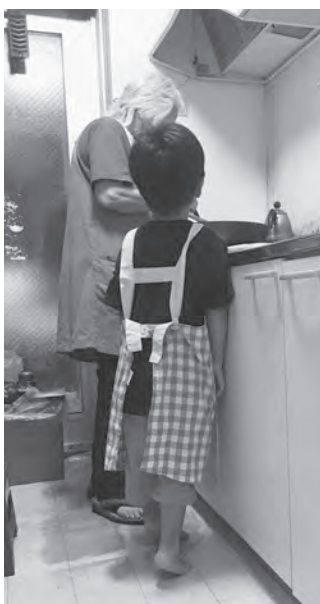
【寄贈者各位】

相崎伸子 青山学院購買部  
稲塚由美子 大高晋一郎 小田祐治 金久保公男 小林幸子 櫻井秀夫 清水亨桐 須藤フミ 竹林勝子 内藤芳江 中島睦雄 中林 浜田文昭 西部卓 丹羽吉康 渡邊純子 加須市子ども館 鴨川会(株)コカコーラ社 子ども食堂応援隊 子ども未来財団 一般社団法人すくすく広場 高橋会計事務所(株)ながはる(株)なとり NPO法人羽生

の杜 羽生ふじ高等学校 東大宮教会 藤沼畜産 マルキチ物産 屋久島東部製茶組合 山芳製菓 立正佼成会教会 長大矢貴士 (敬称略) 他多数の皆様

【ボランティア各位】

岡本有代 櫻井秀夫 田代一吉 山田智 山田裕子 他多数の皆様 (敬称略)



▲夕食のお手伝いをする年長さん。



▶ 7月31日、古河農友会よりカブトムシをいただく。

# 寄付金受領感謝報告

2019年4月1日から2020年3月31日までに受領いたしました「光の子どもの家を支える会」への寄付金をご報告申し上げます。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りによって光の子どもの家のはたらきが支えられております。心より感謝申し上げます。

尚、ご寄付をいただいた方で、お名前が漏れている等お気づきの点がございましたら誠に恐縮ですが光の子どもの家までご連絡下さい。

次号（「光の子198号」）にて訂正致します。

## 2019年度募金総額 375万6478円

小櫛木菊川鴨上加カ柏角小大大大遠榎榎榎梅岩岩今井稲市石安安朝浅相  
 泉田村池浪田瀧藤セ七崎尾川月高岩藤本本本野村田関上塚村津藤達日海崎  
 恵真富礼恵羊 晶 イチ龍 洋孝晉文義真貴健有聡弘公千由 珠陽昭雅徳洋  
 美 口 一 一 実 恵美  
 子澄雄子美子大子ウ男弘郎二郎江夫子夫一紀子枝雄子子翠子子子也子子

永中苗鳥豊富土樽瀧高高瀬関積白白醬清澁繁佐桜坂坂齋齋齋齋今小五肥  
 野澤村越里岡野見口橋瀬田根 濱石野水井永木井本口藤藤藤藤野原瀬沼  
 三雅ゆ宏靖深温幸俊典桂満淳道綾和良享み芳英孝 慶知俊久晶悦浩伸き  
 う 恵 州 さ 美  
 恵宏子子子子之江子代子男子直子子子子桐子巳紀一博行弘一子子子子子よ

矢安谷矢八森森茂宮光三松本堀保宝藤藤福福深樋原原波野野根西西成中  
 吹田澤崎橋山 木野田木野田田坂月原岡田島川口田 野村田岸野 瀬村  
 正深紀正敦ひ節由恵邦双敦 哲陽温礼 弘明千ま町豊雅瑞拓垂友聡圭佐  
 知美一 ろ 美 一 鶴ち 麗 智  
 道江子郎子み子子子二葉子徹郎子美子堯二美子子子彦子枝文朱英子一子

山口 敏子  
山田 裕太  
山田 智子  
大和 友子  
横倉 順治  
吉野 昭徳  
吉野 久美子  
鷺尾 久美子  
渡辺 信一  
渡辺 清美  
青山学院幼稚園  
同 幼稚園保護者会  
青山学院初等部  
青山学院中等部  
青山学院高等部  
青山キリスト教学生会  
小山 聖泉 教会  
学校法人  
ヴォーリズ学園  
学校法人三育学院  
東京三育小学校  
学校法人頌栄女子学院  
学校法人女子学院  
同 JG会  
学校法人捜真学院  
学校法人玉川聖学院  
学校法人恵愛学園  
三鷹小鳩幼稚園  
学校法人広島女学院  
ゲーンズ幼稚園  
学校法人  
ラ・サール学園

株式会社スクーディア・  
ユークリッド  
関西学院高等部  
同 宗教活動委員会  
関東学院小学校  
同 中学校高等学校  
暁星小学校  
同 シャミナード会  
狭山シャローム 教会CS  
シオン幼稚園  
淑徳大学短期大学部  
清水 亨桐  
女子 聖学院  
白百合学園小学校  
同 慈善協力献金  
聖学院 教会CS  
聖学院みどり幼稚園  
聖学院小学校  
同 PTA宗教部  
聖学院中学校高等学校  
聖学院 大学  
つながるシネマ  
同 谷 章子  
つのぶえ保育園  
同 田村 雪絵  
東洋英和女学院小学部  
同 小学部母の会  
同 同中高部宗教委員会  
同 同中高部凶動委員会  
東洋英和女学院同窓会  
西新井教会保育園

日本基督教団青戸教会  
子ども礼拝  
同 朝霞教会  
同 安行教会  
同 岩槻教会  
同 同金沢元町教会CS  
同 鎌ヶ谷教会  
同 鎌倉恩寵教会  
同 北本教会CS  
同 京葉中部教会  
同 久が原教会  
同 小石川白山教会  
同 埼玉和光教会  
同 佐渡教会  
同 狭山教会  
同 渋谷教会  
同 白岡伝道所  
同 世田谷中央教会  
同 仙台川平教会  
同 田園調布教会  
同 名古屋中央教会  
同 西川口教会  
同 西千葉教会  
同 野田教会  
同 東中野教会  
同 東村山教会  
同 日立教会  
同 ひばりが丘教会  
同 三島教会  
同 水元教会  
同 元住吉教会CS  
同 守谷教会

同 葉田台教会  
同 横浜海岸教会  
同 四街道教会CS  
同 早稲田教会CS  
同 和戸教会  
同 日本児童養護施設財団  
同 日本聖書神学校  
同 弘前学院聖愛中学  
同 学生自治会  
同 高等学校宗教部  
同 広島女学院  
同 メサイア委員会  
同 フェリス女学院大学  
同 奨学会  
同 フェリス女学院大学  
同 理事長 亀徳 忠正  
同 普連土学園宗教委員会  
同 北陸学院中学校  
同 高等学校宗教部  
同 武蔵台  
同 キリスト福音教会  
同 明治学院高等学校  
同 目黒星美学園小学校  
同 幼稚園型認定こども園  
同 栢ひがし幼稚園  
(敬称略、順不同)

光の子どもの家をお支えいただき、心より感謝申し上げます。

光の子どもの家を支える会 代表 永野 三 恵  
社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高 晋一郎

## 自立進学基金への寄付金感謝報告

2019年4月1日から2020年3月31日までに受領いたしました「光の子どもの家自立進学基金」への寄付金をご報告申し上げます。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りによって光の子どもの家の子どもたちの自立と進学が支えられております。心より感謝申し上げます。

尚、ご寄付をいただいた方で、お名前が漏れている等お気づきの点がございましたら誠に恐縮ですが光の子どもの家までご連絡下さい。

次号（「光の子198号」）にて訂正致します。

**2019年度募金総額 130万2402円**

(敬称略、順不同)

明	東	長	し	M	山	山	八	村	松	堀	平	野	常	田	高	佐	近	小	栗	金	角	岡	岡	伊	石
治	中	野	ず	G	田	崎	木	上	岡	江	林	口	松	中	橋	野	藤	林	原	田	尾	野	崎	藤	川
学	野	本	く	教	章	祥	穂	啓	悠	恵	ひ	洋	瑠	蘭	正	雅	一	卓	和	和	留	千			
院	教	郷	の	養	福	津	津	ろ	津																
高	会	教	社	福	祉																				
校	社	の	会	祉	会	智	子	子	美	貴	子	子	み	介	子	子	子	夫	葉	健	也	子	子	子	子
P	会	の	委	社	会	会	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
T	員	郷	員	会	会	会	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
A	会	教	会	会	会	会	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子

子どもたちの自立と進学をお支えいただき、心より感謝申し上げます。

昨年度は、主に大学生の学費や生活補助に用いさせていただきました。

おかげさまで、本年3月には1名が四年制大学を卒業することができました。

現在は、社会人としての歩みを始めています。

光の子どもの家自立進学基金 代表 藤岡孝志  
社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高晋一郎